

【依知北地区】令和4年度自治会長と市長とのまちづくりフリートーク実施結果【最終報告】

日 時: 令和4年8月25日(木) 午後6時55分～午後8時  
 会 場: 依知北地区市民センター  
 参加者: 地区の自治会長(13名)、公民館地区館長、  
 市長、副市長、教育長、市長室長、まちづくり計画部長、地区市民センター所長

テーマ 『移動しやすい公共交通環境の整備』について

依知北地区では、住民の高齢化に伴い、自家用車等を使わない自力での買い物や通院等が困難になる人が増えている。地形も中津川と相模川に囲まれているため、川沿いの地域では坂を上り下りしないと出かけられない地区もある。バス路線も国道沿いは本数が多いが、河川付近は本数も少なく本厚木駅へ向かう路線がほとんどで中津川沿いの下川入から相模川沿いの上依知、猿ヶ島などを行き来するような地域を横断する路線がない。短距離であっても徒歩での移動では困難な場所へ移動できるようなコミュニティ交通の導入について、意見交換をしていきたい。

自治会長からの意見

市長等からの回答

意見1 移動しやすい公共交通環境の整備について

【下川入第二自治会長】

■下川入第二自治会では、高齢化が進み問題になっている。この地域には、スーパーや病院、公共施設など何もなく、70歳、80歳の方がほとんどで商店や銀行、病院に行くにも急な坂を30分、40分歩かなければ行けない。バスも1時間に1本しかない。このような地域にこそコミュニティバスを走らせていただきたい。

【藤塚団地自治会長】

■内陸工業団地には物流センターが集積しているが、近くにスーパーがないので、物流センターに代わりスーパーの誘致をしていただくほか、依知北地区内を横断的に循環するようなコミュニティ交通を導入し買い物等に出掛けやすくなってほしい。

【上依知中町自治会長】

■高齢者が買い物や病院等に行くのに坂があり日常的に不便を強いられている。他市町村が実施しているコミュニティバス等を市で検討していただきたい。

【猿ヶ島自治会長】

■当地区では住民の高齢化が進み、子どもは大学・就職・結婚等を機に利便性の良い地区に出ていく傾向が多々見受けられる。高齢者が徒歩で買い物に行ける店舗等もないため、バス利用となるが本数も極端に少なく、駅から歩こうとすると3時間ほど掛かる。以前からコミュニティバスの運行要望があったと思うが、結局渋滞すれば時間が不規則になり、恒久的な解決策とは思えない。根本的に解決するには、若い人に残ってもらわないといけないため、市内を循環、または横断する新交通システムを導入することが最善策だと思う。既存の道路や河川敷等を利用し、千葉県にある「山万ユーカリが丘線」のような小型のモノレール型車両を走らせれば利便性の大幅な向上、厚木市の魅力になるのではないかとと思う。

【山ノ根自治会長】

■この土地の歴史の財産をコミュニティバスにつなげられないか。例えば、停留所ごとにアナウンスがあるが、歴史や文化の説明を加え、新しく住む人にも知ってほしいと思う。単に便利だからということで物事を進めるのはもったいないと思うので、そういった切り口でも考えてほしい。

【上依知中町自治会長】

■他市でコミュニティ交通を導入していると思うが、採算は取れているのか。

【市長】

■コミュニティ交通の導入については、地域の実情によってやるべきことが変わってくる。依知北地区での具体的なエリアやコース取り、利便性を上げていくための取組について、話し合いを進めていく必要がある。

■バスが減便するのは、利用者が少ないことが大きな要因となっている。あつぎ郷土博物館で催しがあるときには本数を増やしてもらおうなど、具体的な調整をしていく必要がある。

■千葉県でのモノレールの事例については、ニュータウンとして新しい街の交通機関をどうするかという発想でできたもので、大規模な宅地分譲と併せて導入された。モノレールについては、事業の採算を考えなければいけない。

【まちづくり計画部長】

■依知北地区のコミュニティ交通については、下川入・山際・上依知が対象となるが、今後どこに移動したいのかなどヒアリング等を行っていきたい。

■令和3年度から交通不便地域に生活利便施設の立地誘導を促すため事業者に補助金を出す制度を始めた。現在、依知北地区への誘致に向けて取り組んでいるが、なかなか土地が見つからない。適した土地があれば御紹介いただきたい。また、内陸工業団地は工業専用地域となるため、スーパーの誘致は法令上できないことになっている。

■鉄道については、小田急多摩線が唐木田駅まで来ており、今後、上溝駅まで延伸される計画がある。それを依知・鳶尾・林を通して本厚木駅までという延伸の要望活動を行っている。すぐにできるものではないが、南北方向の鉄道の整備に向けて、今後も取り組んでいく。

バスについては、バス路線を維持していくこと、そのバス路線へのアクセスをコミュニティ交通等でつないでいくこと、バス路線の沿線にはスーパー等を誘致し、地域の中で快適に生活できるまちづくりを進めていきたい。

■コミュニティバスは乗り合いであるため、新しい仲間と買い物をするなど、コミュニティ交通のコミュニティとはそういう意味もある。地域の歴史、文化、財産を紹介しながら走ることも可能だと思うので、今後の参考としたい。

■コミュニティ交通で採算が取れているのは、ほぼゼロだと思う。コミュニティバスを走らせることが難しい場合は、地区によってはタクシーチケットで助成することも方法の一つとしてある。今後、ヒアリング等で調査していきたい。

《現況・今後の対応等》

■移動しやすい公共交通環境の整備については、地域の状況に合った移動手段となるよう、地域の皆さんと協議し進めていく。(都市計画課)

《中間報告以降の状況等》

■移動しやすい公共交通環境の整備に向けて、引き続き、地域の皆さんと協議していく。